

宗像市市民サービス協働化提案制度報告・意見交換会

日 時	平成21年1月30日（金）10:00～
場 所	宗像市市民活動交流館結工房

1. 各団体の報告

- (1) 特定非営利活動法人 あすか
- (2) 特定非営利活動法人 九州コミュニティ研究所
- (3) むなかた市民大学ゆめおり
- (4) 東海大学福岡短期大学地域総合連携研究室
- (5) 福岡教育大学 船津研究室

2. 意見交換

宗像市市民サービス協働化提案制度報告・意見交換会会議録

(第2回宗像市市民サービス協働化提案制度審査委員会・第4回宗像市市民参画等推進審議会)

日時	平成21年1月30日(金) 10:00~12:10
場所	宗像市市民活動交流館結工房
出席委員	○市民サービス協働化提案制度審査委員会 南博、松永年生、伊豆丸正敏 ○市民参画等推進審議会 東博子、白坂義正、井上豊久、立石公孝、中里留美子、吉田まりえ、光本伸江

1. 各事業の報告

各団体から事業の報告を行った後、担当課が意見を述べた。なお、福岡教育大学船津研究室は所要のため欠席し、担当課が事業の報告もあわせて行った。報告、意見の内容は次のとおり。

(1) 特定非営利活動法人あすか

【団体の報告】

介護も日々進歩しており、腰に負担を与えないなど、安心、安楽にできる新しい介護を伝えていきたいということでやってきた。あすかには理学療法士、介護福祉士等の専門スタッフがいるので、各グループに講座の補助として入り、受講者が実際に体験できるようにするなど、きめ細かい対応と現場のノウハウ等を伝えることができた。アンケート結果も非常に良好であった。

【担当課の意見】

これまで市でやっていた講座は内容が固定化し、また参加人数も少なくなっていた。あすかの専門性を生かすこと、またきめ細かい対応をすることで、受講者の評価も非常に高かった。また、市民活動団体が実施したこと、連続講座としたことなどにより、受講者同士の仲間意識の共有など、講座のみにとどまらない効果が出ていた。

【質疑】

* 受講生の方のグループ化などはなかったか？

A. 今のところはないが、これから受講者同士の交流を図っていくため、最終回に懇親会を実施した。

* シートの課題要望を説明してほしい

A. 用具の準備等で会場の確保が一部問題であったが、包括支援センターの協力により、来年度は講座の一部で日赤を活用することができるようになった。

*予算どおりに実施できたか？

A. 公的な役割を果たさなければいけないと思い、ボランティアに近いもので行った。

(2) 特定非営利活動法人九州コミュニティ研究所

【団体の報告】

提案制度による事業ではないが、平成19年度の予算で、各課で行っている子育てに関する施策を横軸にして、宗像の子育てに関するアピールポイントを、市民や団体から取材しながら、「ムナカタログ 子育て編」を作成した。同じような手法で、現在作成している。

【担当課の意見】

団体の高い専門性を生かして、「ムナカタログ 子育て編」を作成した。提案制度によるパンフは、子育て編に次ぐものと考えており、団体と随時話し合いながら実施している。団体のもつ市外のネットワークなどを生かして作成後はいかに定住化に結びつくか、団体と協議している。

【質疑】

*市民の評判はどうか？パンフは電子化しているか？（子育て編に関して）

A. クチコミ等もよく、非常にいい評価をもらっている。直接の反応は子ども課にいとっていると思う。HPにアップはしていないが、PDFにしている。

*教育環境についてはどのような年齢層を対象に作ったのか？（子育て編に関して）

A. 幼い子ども向けを対象につくった。

*パンフとHPの連携は？コミュニティ研究所として気づいたことは？（子育て編に関して）

A. 特に連携はしていない。コミュニティ研究所として市民にこういう風にしたらメッセージが伝わるという視点で作った。子ども課から「どういう風にしたら、より市民に伝わるか」ということが聞かれるようになった。市役所のなかが変わったと思う。

*スケジュールが押しているようだが、PRをどのようにするのか？仕様書はどうなっているか？

A. 仕様書には詳細なスケジュールを定めておらず、協議の上で、作成するようにしている。九州コミュニティ研究所のネットワークを生かすとともに、市外の人が多く訪れる関係機関に市と連携して配布していく。

*担当課が作成した点検シートに「来年度以降は～考えられる」とあるが、どのような意味か？

A. コミュニティ研究所は非常に専門性等が高いので、提案制度が目的のひとつとしている市民活動団体への支援ということを考慮しなくても、他の民間事業者と同様な扱いで、通常の受委託で対応できると思うということ。

(3) むなかた市民大学ゆめおり

【団体の報告】

社会との関わりがなかなかできにくい人たちと一緒に考えながら作り上げていこうと、実行委員会を立ち上げて実施した。人権をどういう角度からとらえていくかが、非常に難しかった。何をやるかを決めるまでに時間がかかったが、みんなでワークショップなどをする事により、人権をじっくりと考えることができ、また市民への裾野が広がったと思う。反省会では、日常的な活動をもっと多くの団体とつながる必要があるということになった。

【担当課の意見】

これまでとは違い、多くの市民が関わり、目指している「市民からの人権啓発の発信」ができた。市民との対応について反省すべき点もあった。参加者増につながるための広報が十分ではなかった。今後ともゆめおりと協議しながらやっていきたい。

* 14 ページ①の2点目（協働化の中で～あるのでは・・・）はどういうことか？

A. 来年度の事業について、要望を実施していこうとすると、予算が膨らんで実施できるかどうかということである。

* 13 ページの「コミュニティに～」はどういうことか？

A. 1 回の講演会だけでなく、コミュニティと連携しながら、きめ細かくやっていくべきだということ。人権対策課もその必要があると考えている。

(4) 東海大学福岡短期大学地域総合連携研究室

【団体の報告】

市から市民アンケートを対象者に送付して、現在回収中であり、事業は完了していない。回収後、速やかに入力、分析等を行う。現在、100 通の入力済。2 月中旬に入力完了し、それ以降に分析等を行うようにしている。

【担当課の意見】

毎年、市民アンケートを実施しており、700～800 通を回収している。先週300 通回収して、団体に渡した。

【質疑】

* 予算が非常に安価であるが？

A. 印刷は1 部のみ提出でよく、他はデータで渡すなど、経費がかからないようにしている。

* 通常の委託契約ではなく、協働でやる意義は？

A. 大学のアカデミックなところを利用して、今まで明らかにならなかったところを明らかにし

てほしいと思っている。

(5) 福岡教育大学船津研究室

【担当課の報告・意見】

市民が記事を選ぶことで、より市民ニーズがあるものを翻訳することができた。留学生と日本の学生が翻訳に関わることで、日本語・ハングルそれぞれ特有の言い方を、双方でチェックすることができ、より完成度が上がったと考えている。また、この事業をきっかけにして、市民が通訳にたずさわるなど、広がりがみられた。ただし、広報紙に団体の名前が出ていなかったのが反省点。来年度は改善したい。

【質疑】

* 何人くらいの韓国の留学生がかかわっているのか？

A. 5、6人の留学生がかかわっている。

2. 意見交換会

各事業の報告を踏まえ、審査委員会委員と審議会委員の意見交換を行い、その後参加者との意見交換を行った。審査委員会委員、審議会委員の意見、参加者の意見等は次のとおり

(1) 審査委員会委員、審議会委員の意見

* どの事業も市民のためにやりたいという思いが非常に強い。日ごろの現場を踏まえたものであり、協働のメリットが生かされていたと思う。評価に当たっては、当日の参加者だけでなく、それまでの検討過程における市民への広がりを含めて評価すべき。事業にふさわしい費用をどうしていくかを個別にもっと考えるべきだと思う。

* 団体の活動に非常に感動した。このような事業を市民にもっと知ってもらうようにしたほうがいい。

* いいかたちでもっともっと広げるべきだ。全国のモデルとして活用できると思う。

* 市民活動でやれば安価になるという考えは問題があるように思う。行政がどのようにしていくか考えるべきである。定住化パンフについて、都市計画との関係も検討すべきではないか。

* それぞれの団体の思いがよく反映されていた。事業だけではなく、波及効果の部分をもっと行政として理解してほしい。

* 市では気づかない部分を市民の視点で行うことができ、市民サービスが向上した。また、大学連携が進んだと思う。次年度以降は改善してもっと提案しやすいようにすべき。

* 市民サービスはどうあるべきか、市民の目線でどう見ていくかということで非常に勉強になっ

た。市民との協働により、行政の言葉を市民の言葉に変えていくのは非常に大切なことだと思った。

- * 市民の資源が市民に還元されるきっかけになったのではないと思う。評価については、参加者だけではなく、市民満足度を指標にするなどの工夫も必要だと思う。協働の効果はすぐにわからない部分もあると思う。これを今後どう生かしていくことをもっと議論すべきではないか。
- * 審議会、審査委員会、市民が一緒になって議論することは非常に意義がある。結果よりもプロセスが大事だと思うが、このことは特に人権講演会で生かされていた。
- * 提案制度と同種の制度を我孫子市、杉並区などで行っているが行革を中心に行っているように思える。一方、宗像市は協働を中心に行っている。行革に軸足を置いている他市は提案数が伸び悩んでいるが、宗像市は増えてきている。これは今年度実施している団体の成果だと思う。

(2) 参加者の意見等

- * 今年度は委託料が2回に分けて支払われた。講演会等だと、講師謝金などを団体が立替をしなければならない。市民活動団体は資金的に厳しいので、最初に支払えるように検討してほしい。
- * 評価は必ずしも参加人数だけで考えていないし、人権講演会が少ないとは考えていない。むしろ、裾野が広がったなど、評価している。
- * もっと団体間のネットワークを作っていけば、さらに市民サービスが向上する。
- * 他自治体の提案型と違って、宗像市では非常にマッチングが求められている。アイデア提案型でいくのか、市事業を委託して実施していくのか？⇒市回答：今後の検討課題と考えている。
- * 協議の過程では、みんなが安心して話し合える人間関係を作っていくことが大事である。
- * 決められた事業を離れていくことはどのように考えるのか。⇒市回答：まず、市の事業をやっていくことだと考えるが、今後検討する。
- * この制度は市と団体だけのものではなく、市民全体のものである。より多くの市民が参加する手立てを考えてほしい。